

細江カトリック教会だより 10月号

〒750-0016 下関市細江町 1-9-15

☎083-222-2294 ☎083-222-0970

教会への愛

広島教区に新しい司教さまが与えられました。アレキシオ白濱満(しらはま みつる)司教さま。これまで司教不在の2年間は、私たち細江教会でも日曜日のミサの前に、ふさわしい人が派遣されるように祈っていました。その祈りが聞き入れられ、神学院の院長を勤めておられた純粋で霊的な方が任命されました。ほんとうに嬉しいことです。

9月19日に広島の平和記念聖堂で行われた新司教の叙階式には、下関ブロックからもバスを一台して、大勢で参列しました。あいにく台風の影響下の大雨でしたが、たくさんの恵みをいただいた日でした。

そもそも「司教」とは、主イエスが任命した「使徒たち」の後継者です。主イエスの復活の後、使徒たちを中心に教会が生まれ、世界に福音を告げました。教会が大きくなるにつれ、正しい教えと一致を保つために、使徒たちは按手をもって後継者を立てました。これが「司教」と呼ばれる人々です。

私たちはとかく教会を組織として考えがちですが、組織、聖職者、典礼、教義などは教会が世界に広がっていった歴史のなりゆきでできたものです。そのような外的なものに目を奪われて、もっと大切な内的なものを見失ってはなりません。それは、教会を通して与えられている神の子のいのちです。

主イエスは「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」(マタイ 18・20)と約束してくださ

いました。私たちの信仰は、使徒たちの信仰共同体を通して与えられているのです。

今日では、教会にいくことが嫌になったり、教会にご無沙汰してしまう人もまれではありません。それは主として、主任司祭と仲たがいしたとか、典礼が退屈だとか、信者同士のかかわりがわずらわしいとか、外的な理由によります。しかし、そのようなつまらないことのために、教会を通して与えられる神の子のいのちを見失うとしたら、何と不幸なことでしょう。

人生には老いや病などの試練があり、世界には差別や争いや環境汚染などの闇の力が働いています。その中で平和と喜びをもって生きることを可能にするのは、信仰をおいてほかにありません。

新しい司教さまが与えられた機会に、主イエスが使徒たちに委ねた福音の喜びを再確認しましょう。もちろん教会は不完全な人間の集まりですが、教会を通して主イエスと出会うこと、主イエスへの愛は教会への愛と不可分であることを思いおこしましょう。

白濱新司教さまは叙階式の終わりの挨拶で、自ら選ばれた司教の紋章について説明してくださいました。中心の赤い円は愛である神さまで、それにつらなる三つの星はイエス・マリア・ヨセフの聖家族を表しているそうです。私たちも聖家族とともに神さまの家族です。司教さまの誕生を喜び祝い、この貧しい教会がより一層、神の愛の共同体となれますように祈りましょう。

百瀬 文晃 神父



シリーズ 地区だより VI

家庭へのチャレンジ

～ 共に ～

本町地区 桂玲子

ここ数年間、母と密接な時間を共有しています。そこには新発見があり、そのおかげで新鮮な気持ちになれ、平穩に過ごしています。

年を重ねた母は、結果として自分自身を操られずに居り、介護職、看護職、医療職等全てを専門職のスタッフの支援を受けて、自宅で24時間を費やしています。言葉数は少ないのですが、顔の表情はとても豊かで、扱いやすいタイプです。体調をくずした場合は、いつの時間帯であっても専門のスタッフが来宅し、処置を済まし、点滴のある場合には終了するまで待機しています。できるだけ、自宅で最後までという母の思いがかなっているのが現状です。

“朝まだき我が心主をあこがれてめざむ”で始まり、外の様子、天気の話、普通の日常会話、車イスへ移り、食事と、日々の営みが夕食まで続きます。後はベッドに入り主と共に明日までと、一日を終えます。



テゼの祈りの集い 9/9 (金)



*ろうそくの炎・・・光の中を、テゼの歌が・・・静かに しずかに流れます。



テロの犠牲者のために・・・。
 震災で被害に遭われた方々のために・・・。
 世界中の子供たちの平和を・・・。
 病気で苦しんでいる人のために・・・。
 大事な人のために・・・。
 一人ひとり、胸に秘めた思いを言葉にし、言葉にならない心の中の思いも神さまへ捧げる。・・・静寂の中、祈りの言葉が響きました。



避難訓練 9/11 (日)

火災や地震の災害は、一生に一度体験するかしないか、という非常に確立の低いものであることは承知しているが、もし万一ということで集団の避難方法や訓練は必要なのでしょう。

当教会でも毎年2回訓練を行っているのですが、9月11日に行った今年の訓練はやはり緊張感のない訓練となりました。

各地で起こっている豪雨災害や台風災害、熊本地震に代表される近くの場所での災害はやはり気になるものです。

私達は訓練を通して、家庭にあっても災害時の対応は常に頭に入れておきたいと思います。教会の避難訓練がたとえ緊張感のないものであっても、その時は災害というものを一時的にも考える時になればそれでよしと思います。これからは若い方々も入っていただき、避難時の組織体系を作らねばと思いました。

大住 昭夫



＊「地震警報発令！」すばやくろうそくの灯を消す。



＊「年をとって仕事をできなくなっても、神さまの前で心にますます深い愛を集め、人々への慈しみをもち続けてください。・・・

私たちは、神さまの家族なのです。深い交わりの中で生きられますように。健康の許す限り教会にいらしてください。今日はおめでとうございます！」と、百瀬神父さまからのお祝いのおことばをいただきました。



＊号令のもと、座布団等を頭に乘せ低くし椅子の下へもぐる。揺れが収まるまで、しばらく待って、その後、すばやく外へ避難。



敬老の祝福

9月18日ミサ後に敬老会が行われました。台風接近のため、あいにくの雨でしたが、100席を準備して、軽食を用意しました。お年寄りだけでなく、皆さんと一緒に会食しながら、楽しんでいただくようにと、若い方にも声かけをして80人ぐらいが、残って参加していただきました。

話しもはずみ、食事も喜ばれました。これからもお元気でいて欲しいと思いました。
林 妙子



＊77歳以上の方々が、百瀬神父さまから祝福を受ける。

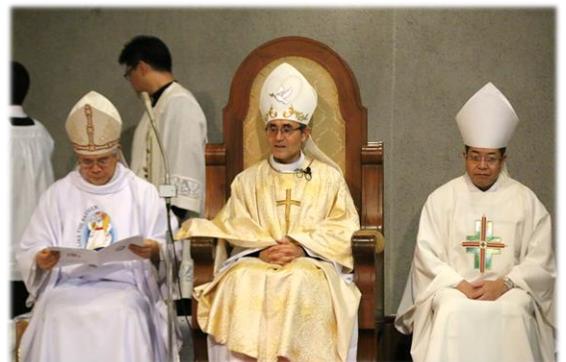
新司教叙階式 9/19 (月)

「福音のためならどんなことでも受け入れ宣教に励んだパウロの言葉を自分の心に刻みながらこれから歩んでまいりたいと思います。今日の叙階の恵みを受けて、私も皆さんとより深く心が結ばれて、神の国の発展のために力を尽くしていくことができると思っています・・・。」

アレキシオ白浜満司教さまのお言葉より



司教さまの紋章



(叙階式の記事は、カトリック新聞に詳しく)

☆司式された前田万葉大司教さまの句☆
「広島白浜満ちて満月や」
「米山白浜満ちて天高く」
「福音の使徒継承や爽やかに」
「仲知という良き牧者たれ爽やかに」
「ご苦労様という広島の薄紅葉」



* 林神父の熱弁に聴き入る信徒たち。

社会教説 9/25 (日)

下関から新しい創造への参加
—小さな一歩の祈り—



年に1回
の細江教会
での社会教
説学習会が
ありました。今回

は、8月に出版されたフランシスコ教皇の
回勅『ラウダート・シ』をもとに、キリスト者として、
私たちが将来世代に対し担うべき責任は何かについて、
林神父さまと一緒に考えました。

回勅の中で、教皇さまは「地球はわたしたちが共に暮らす家」であるとおっしゃっています。ちょっと周りを見回してみると、私たちは家である地球をいためつけ、自然の浪費をしています。それでも母なる大地は、まるで放蕩息子を迎える父親のように私たちに癒してくれます。これからは恩返しをしていかなければ…。木や水や土と向き合い、「どうしたらいいかな？」と対話してみましょう。相手から何かを教わりましょう。そのためには、どんなことにも関心を持ち、神さまからいただいた目や耳や鼻…五感をしっかり使って。

自然や、最も小さくされた人やものごとの大切にするにはどうしたらよいか、これから皆さんとたくさん話ししていきたいと思いました。

ペトロ祭
10月23日(日)
12:00~14:30

◇出し物◇
遊休品コーナー、お楽しみ(ペトロ券)
パウロ書院(聖具、カード、カレンダー等)
こどもゲームコーナー
うどん 焼きそば 焼き鳥 チヂミ
喫茶コーナー ☺餅 食品販売

ペトロ祭協賛行事

10月16日(日) 12:15 聖堂
シター演奏会
10月16日(日) 13:30
ボニー神父によるWYD報告会
10月16日~23日 常設
作品展覧会



キリスト教入門 秋講座
場所；細江カトリックセンター
日時；10/1、22、29
11/5、12、19、26
12/3、17 (10:30~12:00)

問合せ；細江カトリック教会
083-222-2294

